

第 65 回関東地区高等学校 P T A 連合会大会 埼玉大会

令和元年 7 月 12 日
大宮ソニックシティ

記念講演 「夢が生きる力になる」

タレント 向井亜紀 氏

2000 年妊娠の判明と同時に子宮頸癌(レベル 5)が発見され、子宮全摘出。16 週の小さな赤ちゃんを失った喪失感から、サイバース・ギルトになってしまった。精神的なダメージを受け、心療内科の治療も受診するが、免疫力・抵抗力・自然治癒力がなくなり、術後の経過は悪く 18 回も手術を受けることとなった。そんな状態から立ち直れたのは、同じ階で子宮頸癌と闘病していた女性の存在でした。その女性は、幼稚園児の子を持ち、この子の卒園式や小学校の入学式に出席したいんだ！と強く願っており、式当日の服装やウィッグ等あれこれと考えていると話していたそうです。残念ながら、その夢が叶うことにはなりませんでしたが、そのママの分まで私は生きよう！そう向井さんは思ったそうです。涙で語る向井さん。志半ばで逝ってしまったママさんの思いは会場全体も涙しました。向井さんの双子の男の子のお子さんは現在高 1。小学校、中学校それぞれで卒対をされたそうです。

ガンの早期発見や、患者としての気の持ちようで、治療効果が断然アップすること。向井さんの子宮頸癌がわかったのは 35 才。でもその 10 年前にはそのガンはあったらしいです。検診を受けておらず、全く気付かなかったそう。

- ◎いい事があったとき・成功した時の自分の笑顔や喜んだ顔。それを見て喜ぶ人を思うと、体の内側からパワーが出る。
- ◎自分の未来に心を向ける。病気を治して何をやりたいか。イメージが大事。胸の中に思い浮かべるイメージをする。胸のスクリーンに映す。
- ◎自己肯定感を膨らませる。「そうならいいなあ〜」と、イメージするだけで達成感が体中にしみてくる。自分の心、気持ちを高めるような思い何か 1 つ、ワンシーンを明るいイメージで。

そういった気の持ちようで、胸のスクリーンに映せば、ガンは怖くない！

改めてガン検診を含めたガンについて身近に考える貴重な機会となりました。

途中で向井さんがティッシュペーパーを取りに行ったり、涙あり、笑いありのあっという間の 90 分でした。

内田早代子